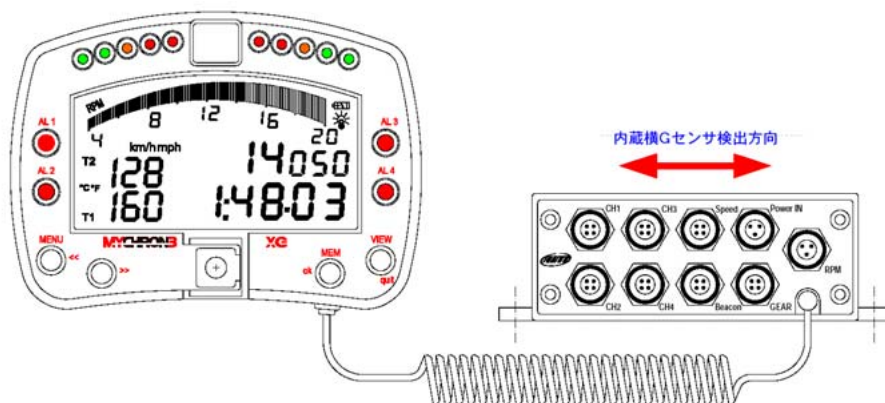


## Aim MYCHRON 3 Gold XG for Auto クイックスタートガイド

## イントロダクション

この度はMYCHRON 3 をお買いあげいただき、有り難うございます。この冊子は、取り付けから計測開始までの一連の流れを記載しています。この他に、機能・操作方法など、MYCHRON 3 Gold XG for Autoを使用していく上で必要となる情報を詳しく説明したりファレンスマニュアルがあります。また、PCとの接続方法を解説したRaceStudio2 マニュアルもあります。

## 取り付け



## ディスプレイ

本体裏面に取付ナットが4本ありますので、これを利用して取り付けます。

## ジャンクションボックス(本体)

両面テープ、ベルクロなどで取り付けます。横Gセンサは本体に内蔵されているので、図の検出方向を参考に付けてください。

## ラップセンサ

## 1. 赤外線式の場合

赤外線受信器(ラップセンサ)をラップマーカーを設置したコースサイドに向けます。また、赤外線は不透明な材質に遮断されてしまうため、ラップマーカーまで見通せる状態にしておかなければなりません。受信器の端にある小さなレンズで信号を受けます。受信器はベルクロや両面テープなどで固定します。

## 2. 磁気式の場合

センサに記載されている矢印方向を、車体の前後方向と合わせて、なるべく低い位置に取り付けます。

センサに記載されている矢印方向と車体の前後方向を合わせれば、上下左右の向きは取り付けやすい方向でかまいませんが、一番感度が高くなるのはラベル面を上にした場合です。高い位置に取り付けなければならない場合などには、できるだけラベル面を上側にして取り付けてください。なお、最大反応地上高はノーマルタイプで約10cm、高感度タイプで約25cmです。



## 温度センサ

MYCHRON 3には温度センサが付属します。選択したセンサに合わせて、下記の要領で取り付けてください。

水温：エンジンの水温センサ取り付け部などに取り付けます。センサはM5サイズか、1/8サイズです。

排気温度：付属するM5のナットを溶接して取り付けます。

シリンダヘッド：スパークプラグのワッシャーを抜いて取り付けます。スパークプラグの取り付け・取り外しの際には、センサの破損を防ぐために、手で持って動かないようにしてください。

温度センサはエンジンに近い場所に取り付けるため、激しい振動にさらされます。このため、センサやケーブルは必ずきちんと固定してください。特にシリンダヘッド温度計は、ヘッドに沿わせるように、センサ自体を曲げた上で固定することをお勧めします。ケーブルが固定されていない場合も、センサの根元で断線しやすくなりますので、注意してください。

## ラップマーカ- (赤外線式ラップセンサの場合)

ラップマーカ- (赤外線発信器) を、コースサイドのなるべく走行ラインが近い場所に置きます。また、ラップマーカ-は受信器と同じくらいの高さに置く必要があります。

ラップマーカ-は、右上の円形に配置されたLEDから赤外線を発信します。裏面に電源スイッチと外部電源の入力コネクタがあります。

使用するためには、裏面から4本のビスをゆるめてカバーを外し、単3型乾電池を8本か、006P型9V電池を1本取り付けます。

外部電源を使用する場合には、乾電池は必要ありません。外部電源はDC12Vのものをお使いください。付属する外部電源ケーブルにはシールドバッテリー用のコネクタが取り付けられていますので、赤いコネクタを+(プラス)端子に、黒いコネクタを-(マイナス)端子に取り付けてください。

重要：Aimのラップマーカ-には周波数(チャンネル)切り替え機能はありません。使用する台数に関わらず、コースに必要なラップマーカ-は一つだけです。

ラップマーカ-の信号ビームは約17度(3:1)で拡がります。言い換えれば、3m離れた地点での信号ビームの大きさは約1mになります。他社製のものも含め、赤外線方式のラップマーカ-がそばにおいてあると、光波が干渉してしまい、信号を拾えなくなることがあります。このような場合、ビーム拡がり角度を参考に、他のラップマーカ-から適当な距離を離して設置してください。通常の使用条件であれば、5m程度離して設置すれば良いでしょう。



## 速度センサ

MYCHRON3 Gold XG for Autoには、バイク用速度センサが付属します。ECU等からの速度信号を利用する場合は、ウェブサイトからダウンロードできるスペックシートでコネクタピン配置を確認の上、配線してください。なお、ECU側のピン配置についての情報はお客様にて調査願います。

バイク用速度センサは、センサ本体とマグネットから構成されています。まず、ハブなどの回転部分にマグネットを取付けます。このマグネットから20mm以内程度で正対するように、センサ本体を取り付けます。センサ本体とマグネットの位置関係がずれないように、しっかりしたステーを作成して固定してください。



## 電源

MYCHRON3 Gold XG for Autoは15Vの外部電源で動作します。付属するケーブルに、極性を間違えないように電源を接続してください。赤がプラス、黒がマイナスです。

## RPM ピックアップ

MYCHRON3 Gold XG for Autoは、ECUからの信号を利用する8-50V 矩形波入力と、コイル一次電圧を利用する150-400V 入力の2系統のRPM ピックアップを装備しています。付属ケーブルを利用して、間違えないように接続してください。

コイル一次電圧をECU ピックアップに入れたり、両方同時に接続すると、MYCHRON3に深刻なダメージを与えますので、十分注意してください。

## センサの配線

センサ類はすべてジャンクションボックス(本体)に接続します。各センサを、本体のコネクタに記載されている通り接続します。

温度計などのアナログチャンネルはCH1からCH4に接続します。センサの種類についてはパーソナルコンピュータで初期設定を行ってください。

## 初期設定

計測を開始する前に初期設定が必要になります。USB ダウンロードケーブルとPCを使用すれば、PCで設定を行い、そのデータをMYCHRONに転送することができます。PCでの設定方法についてはRaceStudio2のマニュアルを参照してください。なお、幾つかの項目はディスプレイのボタン操作で設定を変更できます。

# 使用方法

## データを記録する

MYCHRON 3 Plus/Gold は、電源を入れるだけで走行する準備ができます。電源は電圧が供給された段階で自動的に入ります。MYCHRON3の操作は必要ありません。

走行を開始すると、上部のバーグラフにエンジン回転数が表示されます。また、左にアナログセンサの値が表示されます。

コースサイドにおいたラップマーカーの前を通過する(赤外線式の場合)か、埋設された磁石の上を通過する(磁気式の場合)と、バーグラフ下に周回数、右下にラップタイム(もしくはベストスプリットタイムと現在のスプリットタイムとの差)が表示されます。

なお、MYCHRON 3 Plus/Gold は速度が10km/h未滿で、エンジン回転数が1,000rpm以下の場合には、データを記録しません(タイム自体は表示されます)。

## データを呼び出す

走行が終了したらMEMボタンを押します。これでデータ呼び出しモードに入り、ディスプレイには、最後のセッションのベストタイムを記録した周回のデータ(ラップタイム・最高温度・最高回転数)が表示されます。

矢印キーで記録されているタイムすべてを閲覧することができます。後に進めるには>>キーを、前に戻すには<<キーを押します。各ラップの区間タイムは、ラップタイムの後に順次表示されます。

ラップタイムが表示されている状態でMEMボタンを押すと、その周回の最低値が表示されます。

さらに、MEMボタンをもう1回押すとリアルタイムリプレイモードになり、そのラップの走行状態を再現できます。細かく見たい場合は、<<と>>キーで0.1秒ごとに前後に動かすこともできます。

## データの消去

データを消去するには、CLEAR TEST DATA コマンドを使います。メインディスプレイモードでMENUボタンを2回押して、CLEAR TEST DATA と表示させてから、MEMボタンを2回押します。

---

## サポート

24時間無償サポートをご利用下さい。

Aim s.r.l. 日本語オフィシャルウェブサイト サポートページ

<http://www.aimsports.jp/support/index.html>

お問い合わせが多いトラブルの解決方法など、FAQを掲載しています。

お電話でのお問い合わせはお受けできません。上記ページからメールでお問い合わせいただくか、FAX(020-4665-6438)でお願いいたします。